

多様性 ～よいよいくらしをつくるガギ～

実践場所	愛知県	常滑市立常滑中学校	実践者	吉岡 稔
対象	中学2年生		時間数	2時間
担当教科	選択英語		実践教科	選択英語
ねらい	① ブラジルにさまざまな人種・民族が暮らしていることに気付く。 ② 日本にはさまざまな人種・民族が暮らしていることに気付く。 ③ いろいろな人が暮らす社会を肯定的にとらえることができる。			
実践内容	回	プログラム		備考
	1 (前半)	[導入] 実践者が『大切に思っていること』を、生徒と共有したいと思い、授業を考えてきたこと、また『実践者が大切に思っていること』とは何かを考えながら参加してほしい、と伝える。 [いろいろな人が暮らす国:ブラジル] ・『クイズ:この国はどこでしょう?』…どの国で撮影されたものか当てる。 ・『クイズ:ブラジル人はどれでしょう?』…グループに5枚顔写真を配り、『ブラジル人』と『非ブラジル人』に分ける。ブラジルは、さまざまな民族から成る、多民族国家であることに気づく。 フォトランゲージ		・スライドショー(SS) ・顔写真(5種類)
	1 (後半)	[いろいろな人のつくった、いろいろなもの in Brazil] ・『マッチング・クイズ』…カポエイラ、サッカー、大豆(農業)、ファリーニヤ(食べ物)、カーニバル、は、どのような人々がブラジルに根づかせ、発展させてきたのか考える。 フォトランゲージ [まとめ] ・本時の感想を記入。		・SS ・映像、写真 ・実物(ファリーニヤ、マンジョーカ芋、大豆) ・感想シート
	2 (前半)	[いろいろな人が暮らす国:日本] ・『クイズ:日本に暮らしている人は誰でしょう?』…グループに5枚の顔写真を配り、『日本に暮らす人』と『日本に暮らしていない人』に分ける。日本にもさまざまな人種・民族が暮らしていることに気づく。 フォトランゲージ		・顔写真(5種類)
	2 (後半)	[いろいろな人のつくった、いろいろなもの in Japan] ・身の回りで、『外国にルーツをもつもの、日本人以外の方が作ったもの、発展させたもの』は何か考える。例)ラーメン(中国)、カレー(インド)など ブレインストーム ポスターセッション [まとめ] ・2時間の授業を通しての感想を考える。紙に1つのキーワードを書き、グループ内で感想を共有する。出た感想をもとに、自分の最終感想を記入。		・A紙、ペン ・A4白紙、ペン ・感想シート
成果	想像していた以上に、生徒が意欲的に授業に取り組むことができた。 「実際にブラジルの様子を見てみたい」という声のように、ブラジルに興味と肯定的な印象を持つことができた。 さまざまな人種・民族の存在が、豊かな文化、スポーツ、食べ物をもたらすと気付くことができた。			
課題	さまざまな人種や民族が暮らす社会の『プラス面』・『マイナス面』や、『どうしたら異なる文化を持つ人とうまく暮らしていけるか』など、この授業を前提に掘り下げて話し合う授業ができると更に良かった。 実際に、ブラジル人や日本で暮らす『外国につながる人』に、授業に参加してもらえるとよい。			
備考				

< 実践の詳細 >

第1時 「多様性 in ブラジル」

ねらい：・ 1つの国でもいろんな民族や文化がまじりあってできていることに気づく。
・ ブラジルに肯定的な印象を持つ。

1. [導入]

「僕が大切に思っていることを、みんな伝えたくて授業をつくってきました。」
なぜこの授業をするのか？生徒に説明するのを感じた。ただ、長い前置きになることを避けるため、この短い言葉にとどめた。また、「僕の大切に思う、みんなに伝えたいことは何か、考えながら参加してくれるとうれしいです。」と、付け加えることで、個々の活動に隠された、授業者の意図にまで意識を向けてくれることに期待した。

2. [クイズ：この国はどこでしょう？]

ブラジルで撮影された写真の中から、景色や街の様子、食べ物、生活用具などを映したものをスライドショーで見せる。生徒にはどこの国で撮影されたものか、思いついたときにつぶやくように指示。またブラジルだと正解を伝えた後、簡単に地理の説明を加える。



生徒の様子

高層ビルが立ち並ぶ写真を見たときは、「アメリカ！」など先進国の名前を挙げる生徒が多く、逆にジャングルなど自然が写された写真では「カンボジア！」などの開発途上国をつぶやく生徒が多かった。ただ、高級レストランやモダンな建築物の写真から、大衆食堂の定食や落書きであふれる街の写真などが次々と出てくると、その差からか、「1つの国なの？」というつぶやきも聞かれた。

3. [クイズ：ブラジル人は誰でしょう？](グループワーク)

5枚の人物の写真を各グループに配布。ブラジル人だと思う人物の写真は表向き、そうではないものは裏向きにして机の中央に置くように指示。裏向きになっている写真については、「ブラジル人じゃないなら、これは何人？」と尋ねてみる。正解は全員ブラジル人。



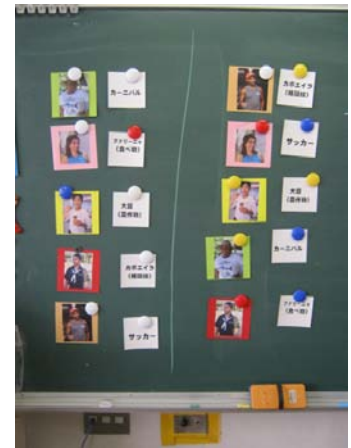
生徒の様子

日系人をブラジル人ではないとするグループが多かった。グループ内での話し合いがどれだけできるか心配したが、予想以上に盛り上がり、積極的に自らの意見を表していた。



4. [マッチング・クイズ](グループワーク)

ブラジルにはさまざまな出自の人々が存在する。ここでは、アフリカ系、先住民、日系(アジア系)、ヨーロッパ系、ミックス(混血)の5つの分類グループを取り上げ、それぞれがブラジルに根付かせ、発展させたものはどれか考えさせる。ミックスは「いろんな文化が融合したもの」とする。先ほどの人物写真と、カポエイラ、サッカー、大豆(農業)、ファリーニャ(食べ物)、サンバカーニバルと書かれた5種類のカードをマッチングさせる。具体的なイメージを持たせるため、なじみの薄いカポエイラやサンバカーニバルは映像を見せ、ファリーニャは日本のブラジル食料品店で購入した実物や、その原料のマンジョーカ芋を見せた。



生徒の様子

ファリーニャの原料、マンジョーカ芋には毒があるとつたえると、とても驚いていた。小分け袋にいたれたファリーニャを興味深く、匂いを嗅いだり、手触りを確かめていた。

5. [感想シートに感想を記入]

ブラジルには純ブラジルだけじゃなくてヨーロッパや日系やアフリカなどの様な人種がいてなかいなと思った。あとフルーなどを見ていたら腹が減ってきた。様な人種を受け入れられるブラジルはすごいなと思てほくも色々な人を受け入れられようになりたいなと思った。

● ブラジルには、いろいろな人種の人々が住んでいて驚いた。日本にも、外国の人はいるけれど、少ない。ブラジルのように多くの人種の人々が住んでいれば、様々な文化が知れとて楽しもうだと思った。

● ブラジルの文化について興味をもちた。「カーニバル」は、日本のお祭りとは全ちがう雰囲気だった。すごく盛大で華やかで迫力があつた。「ファリーニャ」? など、変わった食べ物もあつたけど、甘納豆のような、日本にも親しみのあつる食べ物もあつて、食べてみたいと思つた。

● 私も一度ブラジルに行つてみたい!!
いろいろな人と接したり、様々な文化に触れるのはとても楽しもうだと思った。

第2時 「多様性 in 日本」

ねらい：身の回りにある外国や異文化との接点を考えることで、いろんな人や文化が共存する社会を肯定的にとらえることができる。

1. [クイズ：この国はどこでしょう？]

日本で撮影された写真をスライドショーで見せる。生徒にはどこの国で撮影されたものか、思いついたときにつぶやくように指示。



生徒の様子

すぐに日本だとわかっていった。ただ飽きてしまう様子もなく、写真を集中して見ていた。

2. [クイズ：日本に暮らしているのは誰でしょう？](グループワーク)

5枚の人物の写真を各グループに配布。日本に住んでいると思う人物の写真は表向き、そうではないものは裏向きにして机の中央に置くように指示。正解は全員日本に暮らしている。



生徒の様子

前回の活動で全員ブラジル人であったため、今回も全員日本に暮らしている人だというグループがたくさんあった。ただ逆に、最も日本人らしい写真をあえて裏向きに置くなど、見た目では判断できないという感覚が生徒の中に生まれている様子を伺うことができた。

3. [ブレインストーム：身の回りの外国生まれのもの](グループワーク)



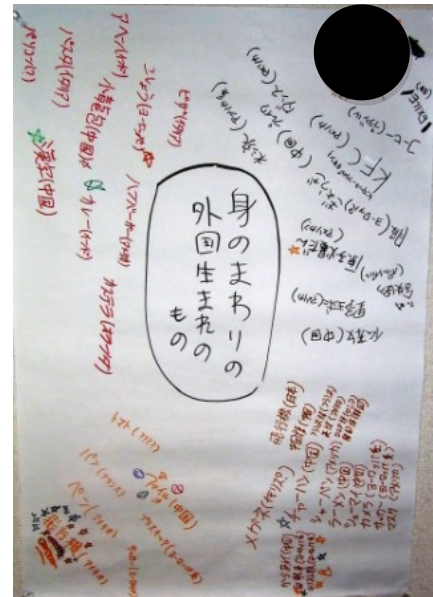
各グループに模造紙とペンを配布。「もともとは外国で食べられていたもの、使われていたもの、生まれたもの。だけど今、あなたの身の回りには何？」というお題で、思いついたものをどんどん書き出していく。具体例として、ラーメンの写真とヒップホップ音楽の映像を用いる。

生徒の様子

カレー、英語、すもう、漢字、スポンジポップなど、豊かな発想で様々なものが書き出されていた。また四人一組のグループで、全員がペンをもち活動に参加できていたことも印象的だった。

4. [ポスターセッション]

ブレインストームの結果を全体で共有する。一人一本ペンをもち、各グループの机を自由に歩き回って結果を眺める。その際に「あー、なるほど」や「それぞれ、そうだね!」と思うもの星印を付ける。



生徒の様子

「あー!」という声があちこちで聞こえた。他のグループが出したものにとても興味を感じている様子だった。自由に歩き回るといことで活動に参加しない生徒がでないかと心配したが、ほとんど全員が意欲的に参加していた。

5. 【まとめ】[わたしの大切に思うこと:『多様性=可能性』]

第1時の導入の際に、自分の大切に思うことを生徒たちに伝えたくて授業を作ってきたと伝えた。その未公表だった「わたしの大切に思うこと」の紹介。スライドに1枚の写真を写し、実は先ほどの日本に暮らしている5人は、私の友人であると伝える。日本にもたくさんの『外国につながる人』が暮らしている。そして身の回りには外国生まれのものや、日本でさらに進化・発展したものがあ、それらによって私たちの生活は豊かになっている。つまり、いろんな人やものとの交わりは、何か新しいものを生み出す土壌になるのではないかと、思っていると伝える。



6. [感想の共有](グループワーク)

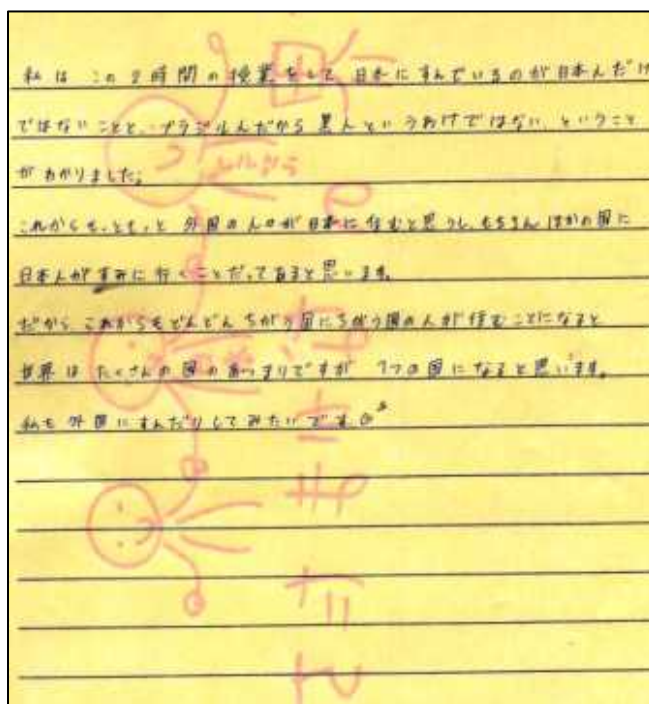
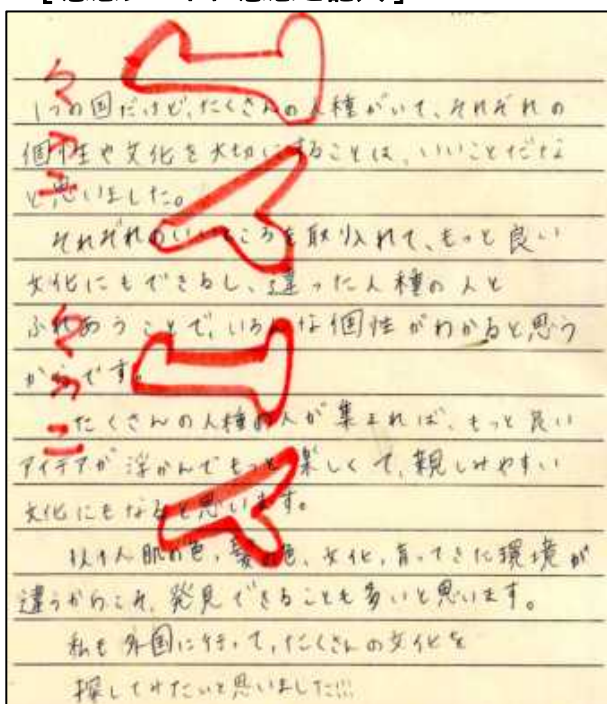
グループ内で1人20秒ずつで感想スピーチを発表しあう。発表内容は授業者の大切に思っていることについての意見や、2時間通しての感想とする。発表の際に、感想シートの裏面にペンで自分のスピーチのタイトルをつけるよう指示。また、『興味深い顔で聞く』、『口を挟まない』という仕事を聞き役に負わせる。



生徒の様子

スピーチをすることに抵抗がある様子だったが、恥ずかしがりながらも意見や感想を発表していた。聞き手にも役割が与えられたことで、聞くことに意識を向けている様子が見えられた。

7. [感想シートに感想を記入]



< 成果 >

さまざまな人種や文化が存在するブラジルは「多文化」と肯定的に出会うための、とてもよい材料であった。「おもしろそう」、「いつか行ってみたい」など、ブラジルや多様性のある社会について好印象を抱いている様子を感想から伺うことができた。

また、参加型の手法を使い、答えではなく、材料をこちらで用意することで、生徒はこちらが期待していた以上に考え、協力し、おもしろい授業を彼ら自身が生み出すことができた。

実践時間数が少ないことを残念に感じていたが、「2時間でできる多文化共生の授業」ということで、他の中学校でも3クラス授業をさせていただいた。少ない時間で内容を精選して行うことの利点もあった。

< 課題 >

さまざまな人種や文化が存在する社会の課題にも目を向けて、課題解決に向けてのアイデアや自分自身ができることなど、もう少し深く掘り下げられる授業を行えると更によかった。